

キャベツ黒腐病情報第1号

令和元年10月10日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

台風の影響によるキャベツ黒腐病の発生に注意！

1 発生状況

9月下旬に県内16ほ場で行った巡回調査における、発病株率は平年並でした。しかし、黒腐病は降水量が多いと発生が増加します、また、植物体の傷は病原菌の侵入口となるので、台風などの激しい風雨によって傷ができると、急増する恐れがあります。**10月11日から13日にかけて台風19号により、風を伴う降雨が予想されるので、黒腐病の発生に注意が必要です。降雨前後に予防のために銅剤等を散布しましょう。**

2 本病の生態等

- (1) 本病菌は根圏土壤中で生存し、雨滴で跳ね上げられ、傷や葉のへりの水孔から侵入し、導管を伝って広がります。病斑部の病原菌が風雨により飛散して、二次伝染します。
- (2) 本ほ場では主に下葉から発生し、葉縁から中央に向かってV字形の黄色病斑(図1)を生じます。病斑が拡大すると病斑内の葉脈は褐色～紫褐色に変色します。葉身部の傷から病原菌が入ると、傷口を中心に同様の病斑を生じます。



図1 V字形の黄色病斑



図2 発病株の様子

3 防除対策

- (1) 降雨が予想される場合は、降雨前後に予防のために銅剤等を散布する。すでに発病が認められたほ場では、治療効果のある抗生物質剤等を含む薬剤を散布する(表)。
- (2) 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため、害虫の防除も徹底する。
- (3) 中耕作業によって生じる傷口は病原菌の侵入口となるので、発生ほ場では中耕作業を控えるか、株際を避け、植物体をなるべく傷つけないよう注意する。中耕作業を行った場合は、速やかに薬剤を散布する。
- (4) 地下水位の高いほ場や排水不良のほ場では、排水対策を行い、過湿状態にならないようにする。

表 キャベツ黒腐病に対する主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統	FRACコード
キノンドーフロアブル	800～1000倍	収穫14日前まで	3回以内	有機銅	M1
アグレプト水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	抗生物質	25
バリダシン液剤 5	800倍	収穫7日前まで	5回以内	抗生物質	U18
カスミンボルドー	1000倍	収穫7日前まで	4回以内 ¹⁾	抗生物質・無機銅 ²⁾	24・M1
カセット水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内 ¹⁾	抗生物質・キノロン	24・31
Zボルドー ³⁾	500倍	—	—	無機銅 ²⁾	M1

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRAC コードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを御覧ください。

農薬の散布に当たってはラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

- 1) カスミンボルドーとカセット水和剤は、同一の抗生物質を含むため、両剤を合わせた使用回数は4回まで。
- 2) 無機銅を含む薬剤は、品種、作型により薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤（クレフノンなど）を加用すること。
- 3) 結球期以降の散布は薬害を生じるおそれがあるので、結球初期までに散布する。